

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600014		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム にこにこ館		
所在地	青森県十和田市相坂字高清水1269		
自己評価作成日	令和4年10月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「にこにこ通信」を季節毎に個々に作成し、ご家族様に送付しています。現在はコロナ禍で実施していませんが、個人行事として好きな所へ行ける「にこにこツアー」を実施しています。生活の中でも布パンツを着用し、日中はトイレで排泄できるように介助しながら、習慣化できるように努めています。現在は感染対策と予防に努めながら、時間と人数制限を設けておりますが、ガラス越しでの面会を再開しています。また、電話やZOOMでの面会も継続して行っており、ご家族様とご本人様の時間を過ごせるようにしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和4年12月15日		

利用者一人ひとりの個性を重視した心に寄り添うケアを目指しており、職員は日々、多方向から利用者を知ろうと取り組んでいる。
系列施設間で複数の委員会を持ち、研修は感染対策のため、職員が資料を閲覧して確認テストを行う形で実施している。また、10数項目からなる接遇チェックを行い、採点式で見える化し、より良いケアサービスができるように工夫しながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「一人一人の個性を大切にゆったりと生活する中で生き生きと地域の中で生活ができる様、「心のケア」中心のお手伝いをしていく」を掲げている。毎朝理念を唱和し、ケアに努めている。	利用者一人ひとりの個性を尊重し、ゆったり生き生きと地域の中で生活できるようにとの思いを込め、独自の理念を掲げている。職員は朝の申し送り時等に理念を確認し、日々、利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校との交流運動会や近くのスーパーでの食材の買い出し等、地域の方々と交流を図り、関係を継続できるように努めている。	コロナ禍のため自粛を余儀なくされているが、併設施設と合同の夏祭りや介護実習生の受け入れ、近隣小学校の運動会等、様々な取り組みを通じて地域住民との交流が行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症についての勉強会を行っている。ボランティア活動や職場体験を積極的に受け入れ、認知症の方と触れ合ったり、説明することで、認知症について理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍のため、会議自体は行っていないが、書面を通して日々の様子を掲載し、意見やアドバイスをいただいている。また、スタッフ間で共有してサービスの向上へつなげ、早急に対応するように努めている。	感染対策のため運営推進会議は2ヶ月毎の書面開催としており、ホーム内の行事や利用者の暮らしぶり、自己評価及び外部評価結果等を報告している。また、返信用封筒を同封してメンバーの意見を収集しており、ホームの運営等に活かせるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や入居者様のお祝い等へ参加していただき、取り組み状況を報告させていただいている。また、相談した際は指導やアドバイスをいただき、連絡を密に行っている。	行政からは連絡事項や研修の案内等、法人全体の関連業務に通達・共有されており、利用者に関わる事例についても指導や助言を得る等、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを把握し、理解を深めている。常にスタッフ同士で意見交換を行い、身体拘束の禁止事項について理解してケアに努めている。	身体拘束適正化のための指針に基づき、法人の委員会を定期的に開催しており、コロナ禍のため職員各自が書面で学習し、確認テストを実施する形で研修を行っている。玄関にはセンサーを設置している他、職員は外出傾向のある利用者を見守りながら、一緒に周辺の散歩等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを熟読し、理解してケアを行っている。また、施設内外の勉強会に参加し、伝達講習を行っている。身体的虐待、言葉での虐待、放任等に注意し、防止に努めている。また、確認テストを行い、理解に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修会に参加した際は伝達講習を行い、スタッフ全員で共有、理解に努めている。現在、必要性のある入居者様はいないが、必要がある方が利用された場合、支援できる体制はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様やご家族様へ書面・口頭にて説明し、理解、納得された上で同意を得ている。不安や疑問点は納得されるまで説明を行い、いつでも不安や疑問を気軽に話せるよう、言葉がけをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様と日頃よりコミュニケーションを積極的に図り、信頼関係の構築と要望や不満を話しやすい環境作りを努めている。意見や要望、不満があがった際は話し合い、運営に反映させている。	意見等を出していただけるよう、利用者との信頼関係の構築に努めており、意思疎通が困難な場合でも利用者の思いを推し測るよう心がけている。家族には運営推進会議の報告書やホーム便り等で利用者の様子を報告し、面会時や電話連絡時等、折に触れて意見の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常的に話し合いを行い、意見をあげてもらい、問題解決や業務改善に努めており、日頃のコミュニケーションの場でも聞くように努めている。出された意見については運営に反映させている。	毎日の申し送りの時間を活用したり、ユニットノートで業務確認や利用者に関する情報を共有しており、会議等も行い、職員が意見を出せる機会を設けている。また、職員から出された意見や提案等は、必要に応じて直属の上司に進言され、ホームの運営等に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や能力を把握している。職員がやりがいや向上心を持てるよう、上半期、下半期での目標を立ててもらい、面談をしている。また、実績をみてベースアップや昇格をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修は本人の希望や能力、年数に応じて受講している。施設での月1回の勉強会やオンラインサービスでの勉強会の資料があり、個人で学習できる環境を整えている。また、ホーム内でのOJTにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームのネットワークができており、情報交換をして、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時より、アセスメントを通してご本人様を把握することに努めている。また、日々の生活の中でのコミュニケーションを通して、不安や要望に耳を傾け、不安等を少なくできるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時より、アセスメントを通してご本人様を把握することに努めており、ご家族様の不安や希望についても確認している。利用開始後も面会時等にお声がけがけさせていただき、要望の確認に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みや契約時より、積極的にコミュニケーションを図り、ご家族様の困っている事や不安な事、要望等を傾聴し、信頼関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを通して生活背景の理解を深め、入居者様の今の思いを受け止めて共感し、思いを汲み取るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報交換を行い、ご家族様の思いを把握して、どのようにご本人様と一緒に支えていくか、方向性の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの病院や美容院等の場所や人を把握して、出かける機会を作っている。現在はコロナ禍のため、病院以外に出かける機会がないが、状況を見ながら支援を再開していきたいと考えている。	入居時のアセスメントや家族等からの情報で、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所を把握している。また、遠方に住む家族とのオンラインでの面会や電話の取り次ぎ等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、スタッフ全員で共有している。一人ひとりが孤立しないよう、日々のコミュニケーションの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係を大切に、必要に応じて相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向をスタッフ全員で共有し、ご本人様の思いに寄り添って支援するように努めている。	利用者が何をしたいのか、職員は日頃の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に努め、個々にできる事を楽しくやってもらえるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様より話を聞き、アセスメントして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の生活時間を把握し、状態変化があった際はスタッフ間で情報共有をしている。また、生活の中で個々のできる事を観察し、力を発揮できるように支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様が快適に生活できるよう、ご本人様とご家族様と話し合い、介護計画を作成して実施しており、3ヶ月毎に評価している。状態に変化があった際には見直しをしている。	介護計画は3ヶ月毎の評価と体調変化等に応じた見直しを行っており、入浴介助時等に利用者の思いを引き出せるようにしている。また、手作業や調理の準備等を一緒に行いながら、気づきにつなげている他、家族の意向も踏まえながら、個々に具体的な介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や特記事項等、個別の記録へ記載している。変化への対応については情報を共有し、より良いケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係機関と連携し、柔軟な支援やサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らしていけるよう、担当のケアマネジャーと協働し、地域資源を把握して個々の力を発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様が希望している医療機関を継続して受診できるように支援すると共に、医療機関との良好な関係作りを行っている。	これまでの受療状況を把握し、通い慣れたかかりつけ医等、希望に応じた医療機関への受診を支援している。また、受診結果については状況に応じて都度電話で連絡したり、面会時等に報告し、家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化をスタッフは細かく観察し、相談や報告をして協働で健康管理をしている。また、隣接施設の看護師にも協力を仰ぎ、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、ご本人様のこれまでの健康状態や生活状態を病院側に情報提供している。また、治療状況の把握のため、随時連絡を取り合い、情報交換や相談をして、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っている。また、重度化した方や終末期の方の対応として、ご本人様やご家族様、医療機関と話し合いを行い、方向性を考えて支援している。併設の介護老人保健施設の専門スタッフと連携し、必要なケアを提供できるように支援している。	「看取りに関する指針」や「重度化対応・終末期ケア対応指針」を掲げ、利用者が重度化した場合や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしており、入居時に説明をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やその後の連絡、対応方法について、日中・夜間も含め「緊急時マニュアル」を作成し、把握している。また、定期的に勉強会を行い、確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し、消防立会いのもと訓練を行っている。避難経路を見えやすく掲示している。また、隣接する介護老人保健施設と連携を図っている他、市から防災ラジオの貸し出しを受け、設置して活用している。	年2回、内1回は消防署立ち合いによる避難訓練を行い、併設施設と合同で実施して、職員同士の連携体制を整えている。更に、ホーム内の職員会議の際に通報訓練や誘導確認を繰り返し行い、共通の対応を身につけるように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの特性をスタッフ間で理解した上で、尊厳を失うことなく、プライバシーに配慮した声かけを行っている。個人情報取り扱いにも十分に配慮している。	教育接遇委員会の資料による研修の他、年2回、身だしなみや言葉遣い等10数項目の接遇チェックを行い、職員は自身のケアの振り返りを行っている。また、家事や調理、手作業等をする時にも必ず意向を確認しており、利用者を尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し、できる限り自己決定できるよう、個々に合わせた言葉かけを行っている。ご本人様がやりたい事をできる限り行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診や行事の関係で希望に沿えない場合を除き、極力、個々のスタイルで過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着用したい衣類をご本人様と一緒に選び、さりげなく整えたり、自分らしいおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、行事には特別メニューを考案し、楽しめるようにしている。個々の力量に応じて、皮むきや盛り付けを一緒に行っている。	併設施設の管理栄養士が献立を作成し、苦手なものには代替品を提供しており、おかゆや刻み、トロミ食にも対応している。また、希望のメニューは誕生日やお花見等の行事食で実現させており、利用者はできる範囲で職員と一緒に盛り付けや茶碗拭き等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成し、隣接する介護老人保健施設の管理栄養士よりアドバイスをいただいている。苦手な物は代替品にて対応している。食事量や水分量は毎食確認し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り自力で行えるように支援している。毎食後、口腔ケアを行う際に残菌や義歯、口腔内の状態の確認を行い、異常の早期発見に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し、介助している。オムツやパット使用者は継続の必要性の検討を定期的に行っている。	排泄チェックをデータ化して管理・把握しており、排泄の自立に向けて支援を行っている。また、失敗時等は他の利用者に気づかれぬよう速やかに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操の時間を設け、体を動かしている。適宜、水分補給を行い、水分量を把握している。不足分はゼリー等で対応し、脱水の予防をしている。また、乳製品や食物繊維を取り入れた食事を積極的に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入居者様のタイミングで入浴できるように心がけている。1週間に6日は入浴できるよう、お湯を沸している。	介護度が高い方も掛け湯やシャワーチェアを使い、全員ユニットバスで週2回以上は入浴できるように支援している。好みの湯加減で入れるように順番を考慮している他、拒否がある場合にも本人を尊重して無理な支援は行わず、日にちを変えたり、様々な誘導を試みる等して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて、静養や入眠の介助を行っている。外出や受診等により疲れがある場合は、その場に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時の説明書の確認を各自で行っている。医療連携している訪問看護師に助言をいただいている。服薬後の変化について観察を行い、記録に残すと共に、スタッフ間で情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意な事や今の生活の中でできる事を分析し、一緒に行い、役割につなげている。また、入居者様に楽しんでいただける事を企画し、月に1回以上できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため現在は行っていないが、近くの小学校に協力いただき、子供達との交流の機会を設けている。屋外の行事を企画して実施している。また、ご本人様の行きたい場所へ年に1回は行けるよう、話を傾聴してご家族様へ相談し、実施している。	「にこにこツアー」と称し、利用者の希望する場所へ出かける支援を行っていたが、コロナ禍のため難しい状況である。ホームではクリスマスや節分、ひな祭りや模擬縁日、流しそうめん等、季節や習慣を取り入れたホーム内行事を毎月楽しめるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事や買い物の際にご本人様の必要としている物を一緒に選び、会計の際にはご本人様が支払えるように支援している。金銭の使途に関する相談、報告等をご家族様に行い、合意をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が希望した際には電話をかけた後、手紙を出す際には内容を引き出すように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の好む音楽を流したり、壁画を作成して季節を感じていただけるようにしている。ホールには大きな天窓があり、自然光が差し込んでいる。テレビや音楽等、状況に応じて音量調節を行っている。エアコンや床暖房、加湿器等により、温度調節を行っている。	テレビの音量は適度であり、床暖やエアコン等の使用や温・湿度計のチェックにより、快適な空間となるように取り組んでいる。また、ホールの壁には季節の壁絵や手作りのカレンダー、行事の写真等が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの場所でゆったりと過ごせるように、腰掛けやテーブル等の配置に配慮し、自由に居心地良く過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様が自宅で使用していた馴染みの物を持って来ていただき、安心できる居室作りに努めている。写真等を飾り、居心地の良い空間となるように心がけている。また、気温や湿度にも気をつけている。	利用者が馴染みの品に囲まれて気持ちが落ち着く居室となるよう、家族に持ち込みを働きかけており、テレビや時計、ぬいぐるみ等が持ち込まれている。また、利用者の手作りの作品や家族の写真等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がトイレや居室、浴室等がわかりやすいよう、ネームを掲示している他、過ごしやすいように家具の配置に配慮している。時計やカレンダーを飾ることにより、自立した生活ができるよう、環境作りを行っている。		